



広野2区地域「ミニティ」
佐藤 和男



広野2区は平成4年に広野から分離独立した、嵐山町では比較的新しい地区で、文化村と通称で呼ばれています。これは、かつて宅地開発業者が武蔵嵐山文化村の名称で分譲を始めたことに由来する



と聞いています。県道嵐山深谷線から関越自動車道をはさんで反対側の山林の中に位置しており、深谷沼を中心として比較的狭い地域に多くの家が寄り添うように建っていることが特徴です。

嵐山町の地元出身の住民でも、「こんなところにこんな住宅街があったんだあ」と驚かれる方もいらっしゃるようです。平成2年ごろから平成7年ごろにかけて急速に戸数が増えましたが、その後は頭打ちとなり、現在は175戸内外となっています。

住民同士の自主的な活動は広野2区自治会が発足してから間もなく始まっており、嵐山夏まつりに有志が参加し始めたのが最初です。その後、自主的な活動グループが複数できて、それを取りまと



める形で地域コミュニティ「むら」ができました。コミュニティ活動としては、アジサイの道作り、里山の保全管理、手工芸教室など、その都度有志の参加者を募って行っているものと、自治会との共催で広く住民に楽しんでもらうためのイベントがあります。後者の代表的なものは、夏の夏祭りや冬の餅つきです。ここでは夏祭りに焦点を当てて紹介します。文化村ふれあい夏祭りには、地域の子供たちにもふるさとのお祭りの思い出を作ってもらいたいという思いから、青年会に相当する団体を中心となって自治会と協力して始めたもので、今年で第18回を迎えました。地区内の公園を会場に、模擬店やスイカ割り、流しそうめんなどをやりました。

かつては小学生として参加していた子が、最近は親となって自分の子供と一緒に来てくれています。他地区の方もお招きして、すっかり夏の風物詩として定着しています。といっても、ここまでの道のりは必ずしも平坦なものではありませんでした。マンネリ化しているとか、一部の人たちだけが楽しんでいるだけだとか、騒音や煙が近所迷惑だなど、批判的な意見も絶えず聞かれ、開催が見送られた年もありました。でも「継続は力なり。」「やめるのは簡単だけど再開は難しい。」「と、開催を支持する意見も多数あり、何とか続けてこられました。このように、いろいろな意見があるということを前提に、決して押しつけをせずに、ゆるやかに存在するというのがコミュニティ活動のコツであるかもしれません。昨今、都会では隣近所の付き合いが希薄になって、いろいろな社会問題の背景となってきたと思います。広野2区でも平日の昼間は人通りが少なく森閑としている時もあります。顔を合やす機会が少ない住民同士がこのようなイベントをきっかけとして知り合い、コミュニティの輪が広がっていくことを願っております。

教育相談室

望ましい親子関係が子どもを伸ばす

みなさんは、自分の子どもにどんなことを望みますか。

「元気ならそれでいい。」
「とはいうものの、やはり「勉強ができる子になってほしい」「スポーツで活躍してほしい」「何か才能を見つけ伸ばしたい」など、子どもをもつ親としてはいろいろな願いがあると思います。これらの願いを叶えるためには、子ども本人ががんばることとはもちろんですが、親として子どもを上手に支援していくことが大切です。それでは、どのように子どもを励まし、声をかけていったら、子どもの力を伸ばしていただけるのでしょうか。

① 評価は結果ではなく過程を重視しましょう。

親として、点数に一喜一憂し、機嫌がよくなったり、悪く

なったりすることはありませんか。親が求めるもの「結果」点数や成績。これでは結果重視になりすぎてしまい、子どもたちの意欲はそがれてしまいます。子どもたちは、結果を出すための努力やがんばりなどの過程も見届けてほしいのです。そして、そのがんばりを適切な言葉で評価してほしいのです。たとえ今回の結果が悪くても、努力したことをまずほめましょう。そして、必ず努力は成果として身につくと信じ、励まし続けましょう。

② 信頼で結ばれた親子関係を築きましょう。

親として子どもの躰は厳しくする。確かにその通りですが、それにはある前提が必要です。それは、厳しさが通用する親子関係を築くことです。親子の信頼関係がしっかりしていない

と、厳しい声がけは、子どもからの「反発」につながり、むしろ逆効果になってしまうことがあります。子どもの長所や短所を客観的に把握しましょう。そして、良いときはほめ、だめなときはどこがよくなかったのか具体的に示して示かることです。信頼で結ばれた親子関係ならば、かなり厳しい注意や指示も、子どもは納得して聞くでしょう。

③ 一緒に過ごす時間を大切にしましょう。

そのような望ましい親子関係を築くために、まずできることとしては、子どもと一緒に過ごす時間を意識してつくることです。家の手伝いはもちろん、買い物や図書館、趣味やスポーツなどを楽しむ時間を共有することが大切です。一緒に過ごす時間の使い方としては、先生から

返却されたテストと一緒に見直してみてもよいでしょう。結果としての点数だけを見てしかるのではなく、「どこをまちがえたのかな。」「ここはこうやってごらん。」と、一緒に会話をしながらやり直しをしてみよう。親が見てくれるという安心感が生まれ、子どもも自信が持てるようになります。

④ 上手なかかわり方で子どもを伸ばしましょう。

子どもと共に過ごす時間のなかで、会話を増やし、子どもの様子を見届け、ほめながら、余裕を持って子どもと接したいものです。そして、親の思いだけを押しつけるのではなく、常に子どもの立場や考え方を尊重する姿勢が大切です。このようなかわりのくりかえしが、子どもを伸ばすことにつながっていくのではないのでしょうか。